

ベルリン内科学会 議事録 (1896 年 1 月 6 日)

*Verein für innere Medizin (Sitzung vom 6. Januar 1896)**

Werliner Klinische Wochenschrift 33:47,1896

Jastrowitz 氏は、その結果によっては近年最も画期的となりうる発見について報告した。これは純粋な物理学的性質のものであるが、医学にとって内面的にも外面的にも意義をもつものである。演者はその証拠として人間の手の写真を供覧したが、これは実際には生きた人間で撮影したものであるが、あたかも骨をとりだしたかのように見える。

いわゆる陰極線管によって、真空中で電流が放出される光現象は良く知られている。この発見をしたヴェルツブルク大学のレントゲン教授は、このような真空管を黒い厚紙で覆ったところ、暗室内でシアン化白金塗布板が電流の放電の度に微光を放つことに気付いた。この光は人間の目には見えないものであった。レントゲンはこの光線が、他の物体、例えば 1,000 頁の厚い本、厚さ 3cm の木板などを透過することを発見し

た。どんな物体も十分に薄くすれば完全に不透過性ではなく、例えば何層ものゴム製樹脂でも光線は透過する。物体が厚いほど、透過する光線は少ない。前述の写真については、光線が軟部組織を透過し、骨だけが浮かび上がり、さらに手の 2 つの金属製指輪も見えたことが明らかである。光線の化学的性質の実験によると、これを写真に撮ることができる。撮影装置と被写体の間に扉があっても写真が撮れた。あるいは被写体を木箱にいれて蓋をしても、箱を通して写真が写ったのである！この新しい光線は奇妙なことに、反射の法則、屈折の法則に従わない。どんなプリズムも通過する。また磁石によって偏向しない。レントゲンは、その特徴に相応しい名前がないため、まずはこれを X 線と命名した。レントゲンはこれを別の平面で振動する波動であるという仮説を立てている。(新発見は疑いなく医学的に非常に大きな重要性をもつものである。編集者)

* 本稿はベルリン内科学会の定例集会の議事録で、演題発表に先だつてその冒頭で Jastrowitz が最新ニュースを報告したものである。